

笛吹市探訪

笛吹市の史跡⑥

積石塚古墳

石和町北部の松本にある大蔵経寺だ
いぞうきょうじ(周辺には、古墳が数
多く存在します。

3年前に発掘調査を行ったところ、
大蔵経寺前の平地には、狭い範囲に直
径20メートルから30メートルほどの円
墳が肩を接するように群在していたこ
とが分かりました。これらの古墳群は、
周りに数メートル幅の溝(周濠)しゅう
ごう()を持ち、遺体を保護する石の部
屋の上に土を盛ったもので、5世紀頃
に造られました。ここからは、図1の



大蔵経寺山古墳群第15号墳調査風景(1984年)

高さ4・9センチメートルの粘土製人
形が発見されており、祭祀(さいし)に
使われたと考えられています。

石和町北部には、前述の土盛りの古
墳以外に、石を積み上げて造った積石
塚古墳(つみいしづかこふん)がありま
す。東日本ではあまり類例のない特殊
なもので、大蔵経寺山のふもとから中
腹にかけて、春日居側、石和側にそれ
ぞれ十数基あることが分っています。

積石塚古墳が造られたのは、古墳時
代後期にあたる6、7世紀です。この
古墳は、山の石だらけの斜面にあり、
土の代わりに大小の石を積み上げて、
墳丘を形成しています。

また、同じ山塊(さんかい)のすそを
巡るように、甲府市横根町、桜井町に
も積石塚古墳145基が確認されてい
ます。これら以外には、甲府市湯村と



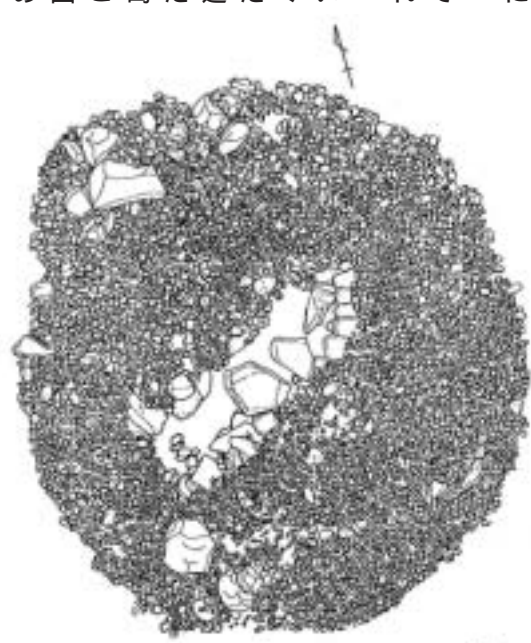
周濠で発見された
粘土製人形(図1)

千代田湖南の天狗山に
一つずつあるだけです。

積石塚古墳について
は、きちんと調査され
た例が非常に少なく、
初めて造られたのがい
つ頃か、どのような人々
が造ったのか、いまだ
に不明です。副葬品(ふく
ざうひん)遺
体と一緒に埋められた
品々(ひん)には、朝鮮半島
に類似品が見られるこ
とから、渡来人の集団
が造ったという説もあ
りますが、日本風副葬品も同時に見つ
かっているため、渡来人説が正しいと
断定するには無理があります。

春日居町の山梨岡神社のすぐ北にあ
る保雲寺周辺の山すそは、積石塚古墳
と土盛古墳が密集している地域で、そ
こに隣同士で並ぶ「狐塚古墳」と「寺
の前古墳」からは、銅製のおわん(仏
具)が出土しています。また、この2
つの古墳の近くにある「寺の前3号墳」
からは、鳳凰(ほうおう)がデザインさ
れた環頭太刀(かんとうたち)の柄が見
付かっています。これらの品々は、お
そらく豪族のリーダーが所有していた
ものでしょう。

7世紀後半になると、春日居町寺本
には「古代寺院」が造られました。豪
族たちが古墳造りをやめ、寺を建てる
ようになったからです。これをきっか
けに仏教が山梨に本格的に伝わり始め
たと考えられます。



第15号墳実測平面図



大蔵経寺山古墳群・第15号墳の積石